

2019年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）（単位：億円）

	2018年度 (第14期) A	2017年度 (第13期) B	増 減		2019年度 (第15期) 計 画 ^{※2}
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	14,552	9,720	4,831	149.7	12,035
高速道路事業	13,770	8,964	4,805	153.6	11,247
(料金収入)	6,934	6,786	147	102.2	6,740
(道路資産完成高等)	6,835	2,177	4,658	313.9	4,507
関連事業	782	756	25	103.4	787
(休憩所事業)	326	315	10	103.2	330
(その他事業)	456	440	15	103.6	457
営業費用	14,402	9,648	4,754	149.3	12,003
高速道路事業	13,673	8,943	4,729	152.9	11,262
(道路資産賃借料)	5,010	4,926	83	101.7	4,590
(道路資産完成原価)	6,825	2,168	4,656	314.7	4,507
(管理費用等)	1,837	1,848	▲10	99.4	2,165
関連事業	730	706	24	103.4	740
(休憩所事業)	274	267	7	102.8	285
(その他事業)	455	438	16	103.8	454
営業利益	149	71	77	208.1	32
高速道路事業	97	21	75	459.7	▲14
関連事業	52	50	1	103.4	46
経常利益	166	85	80	193.4	31
当期純利益^{※1}	101	198	▲97	51.0	20

実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※1 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を記載しております。

※2 2019年度計画は、2019年3月29日付けで国土交通大臣から認可された「平成31事業年度 事業計画」を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

(注) 当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業		業務内容
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業 等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

- ・中部横断自動車道 (新清水 JCT～富沢 IC 間) 21km…2019年3月10日開通
- ・新東名高速道路 (厚木南 IC～伊勢原 JCT 間) 4km…2019年3月17日開通
- ・新名神高速道路 (新四日市 JCT～亀山西 JCT 間) 23km…2019年3月17日開通
- ・東海環状自動車道 (大安 IC～東員 IC 間) 6km…2019年3月17日開通
- ・東海北陸自動車道 [4車線化事業] (白鳥 IC～飛驒清見 IC 間) 41km…2019年3月20日完成
※IC…インターチェンジ、JCT…ジャンクション

(通期業績)

○営業収益は、13,770億円(前年同期比4,805億円増)となりました。

- ・料金収入は、6,934億円(同147億円増)でした。これは、特に大型車の交通量が昨年度に引き続き堅調に推移したことによるものです。

また、1日あたりの取扱通行台数は198万台(同1.9%増(うち大型車5.0%増))でした。

- ・道路資産完成高等は6,835億円(同4,658億円増)でした。これは、新名神高速道路(新四日市 JCT～亀山西 JCT 間)の新規開通など、道路資産の引渡し規模が前期に比べ大きかったことによるものです。

○営業費用は、13,673億円(同4,729億円増)となりました。

- ・道路資産賃借料は、5,010億円(同83億円増)でした。
- ・道路資産完成原価は、6,825億円(同4,656億円増)でした。(要因は、道路資産完成高等と同様)
- ・管理費用等は、1,837億円(同10億円減)となりました。これは、暖冬により雪氷対策費用が減少したことによるものです。

○上記の結果、営業利益は97億円(同75億円増)となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるサービスエリアづくり

- ・2019年3月に新設オープンした新名神高速道路 鈴鹿パーキングエリアでは、地元の産業・伝統工芸の振興、発信の場となる地域連携スペースを設置したほか、コインシャワーや授乳室、高速道路最大級のドッグランを整備する等、さまざまなお客さまのニーズにお応えするサービスエリアづくりに取り組みました。
- ・北陸自動車道小矢部川サービスエリア(下り線)、東名高速道路牧之原サービスエリア(下り線)等の既存エリアにおいては、店舗配置の見直しやコンビニエンスストアの新設、コインシャワーの増設等の各種サービスを充実させるリニューアルを進め、利便性を向上させました。

○その他(関連)事業の推進

- ・社宅跡地を活用した宅地分譲事業や、高速道路の周遊と観光施設や宿泊施設の利用券をセットにした商品の拡充などに取り組みました。また、新たな取組みとして、農業への参入や中継物流拠点の運営も開始しました。

(通期業績)

○営業収益は、782億円(前年同期比25億円増)となりました。

これは、非連結子会社を吸収合併したことや休憩所事業の店舗売上が堅調に推移したこと、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○営業費用は、730億円(同24億円増)となりました。

これは、非連結子会社を吸収合併したことや国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業利益は52億円(同1億円増)となりました。

(3) 当期純利益

○当期純利益は、101億円(前年同期比97億円減)となりました。

これは、前期に計上した厚生年金基金代行返上益(特別利益)223億円及び法人税等調整額68億円の反動により減少しています。

以上